

## 花き類・観葉植物－宿根アスター－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。  
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名				
						ミカンキイロアザミウマ	コナジラミ類	ハモグリバエ類	ヨメナスジハモグリバエ	シロイチモジヨトウ
1	アクタラ顆粒水溶剤	抑制	普	チアメトキサム	4A	○	○	○	-	-
2	オルトラン水和剤		普	アセフェート	1B	-	-	-	○	-
3	カスケード乳剤	抑制	普	フルフェノクスロン	15	-	-	-	-	○

## 花き類・観葉植物－宿根スターチス－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。  
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						コガネムシ類幼虫
1	オルトラン粒剤		普	アセフェート	1B	○

## 花き類・観葉植物－シンビジウム－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。  
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病虫害雑草名
						モザイク病感染防止
1	レンテミン液剤		普	シイタケ菌糸体抽出物	NC	○

## 7-(9) シンビジウム（花き類、花き類・観葉植物に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防 除 方 法	参 考 事 項
モザイク病 ( CyMV 、 ORSV )	<b>生育期</b> 1. 発病株は早期に処分する。 2. 発病株に接触した刃物は第 3 燐酸ナトリウムに 10 分以上浸漬処理または火炎 (5 秒)、煮沸(5分)による消毒を行う。 3. 指先、器具をレンテミン液剤に浸漬し濡れた状態で管理作業を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・汁液、株分けなどにより伝染する。</li> <li>・CyMVは葉脈の間に多数の退色条斑や黄色条斑が現れ、褐色または黒色のえそ条斑やえそ斑点等が生じ生育が衰える。</li> <li>・ORSVは葉に激しい退色条斑や退色斑紋を生じ、あわせてえそ条斑が現れ、生育が抑えられる。</li> </ul>
ナメクジ類	<b>生育期</b> 1. 花茎伸長期の花茎と蕾や花卉に被害を受けるため、被害時期前からメタアルデヒド等を含む薬剤をハウス内に散布する。 2. 通風が悪く湿度が高い場所を好むため、ハウス内に不要な鉢や資材等を放置しないようにする。 また、産卵期中心にハウス内外の除草を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加害する主要な種として、ノハラナメクジ(体長 25~30 mm、背側が黒く模様がない。春と秋に産卵する。)、フタスジナメクジ(体長 60 mm、背側に黒の縦すじが入る。年 1 回 3~6 月に産卵。)</li> <li>・夜行性であるが、被害を受けた株の茎葉に粘液で光った這い跡が残されているため、ナメクジ類による被害と確認できる。</li> </ul>

## 花き類・観葉植物－すいせん－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。  
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名
						球 根 腐 敗 病
1	ホーマイコート		普	1. チウラム 2. チオ ファネートメチル	M3、1	○
2	ホーマイ水和剤		普	1. チウラム 2. チオ ファネートメチル	M3、1	○

## 7-(10) すいせん（花き類、花き類・観葉植物に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
球根腐敗病	<b>植付前</b> 1. 土壌消毒を行う。（土壌くん蒸剤の項参照） 2. 適用薬剤で球根消毒を行う。 3. 無病の球根を植え付ける。 4. 連作を避ける。  <b>生育期</b> 1. 発病株は、早期に抜き取り処分する。 2. 土壌の過湿や過乾は避ける。	・適用病害名は球根腐敗病であるが、スイセンでの球根腐敗病での病害名はない。スイセン球根腐敗病の適用薬剤はフザリウム菌、リゾクトニア菌（糸状菌）に効果がある薬剤。フザリウム菌の病害名は乾腐病。

## 花き類・観葉植物－スターチス－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。  
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名			
						うどんこ病	灰色かび病	アブラムシ類	ハダニ類
1	サンヨール		普	DBEDC	M1	○	○	○	○
2	フルピカフロアブル		普	メパニピリム	9	○	○	-	-
3	ポリベリン水和剤		普	1.イミノクタジン 2.ポリオキシシ	M7、19	○	○	-	-
4	ロブラール水和剤		普	イプロジオン	2	-	○	-	-

## 花き類・観葉植物－スターチス－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。  
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名			
						ヨトウムシ	ハスモンヨトウ	シロイチモジヨトウ	コガネムシ類
1	アディオンフロアブル	抑制	普	ペルメトリン	3A	○	-	-	-
2	カスケード乳剤	抑制	普	フルフェノクスロン	15	-	○	○	-
3	スミチオン乳剤		普	MEP	1B	-	-	-	○

各論作成日:2022年11月1日 必ずラベルを確認してから農薬を使用してください。

## 7-(11) スターチス（花き類、花き類・観葉植物に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
灰色かび病	<b>生育期</b> 1. 発病葉・花は、早期に抜き取り処分する。 2. ハウス内の換気をはかり、湿度を下げる。 3. 暖房機の送風運転や循環扇を利用し、ハウス内の空気を動かし結露の防止を図る。 4. 多湿時は暖房機を作動させて温度を確保し、強制的にハウス内の湿度を下げる。	・発病適温は20℃前後である。 ・多湿条件で発生しやすく、降雨が続く時期や冬期保温のためハウスを密閉する時期に発生が見られる。
ウイルス病 (BBWV、CMV、TuMV、CYVV)	<b>生育期</b> 1. 発病株は、早期に抜き取り処分する。 2. 健全な苗を定植する。 3. アブラムシ類の防除を徹底する。 （野菜・花きのウイルス病防除対策の項参照）	・アブラムシ類により伝染する。 ・BBWVは葉に軽い奇形(凹凸)を生じ、株全体が萎縮。CMVは茎に軽いえそ斑を生じる。TuMVは茎葉が奇形になり株全体が萎縮する。CYVVはえそ斑点がでる。また、複数のウイルスが混合感染する場合もある。
ウイルス病 (INSV)	<b>育苗期、生育期</b> 1. 育苗中からアザミウマ類の防除を徹底する。 2. ハウスの開口部は防虫ネットを張る。 3. 健全な株を定植する。 4. 発病株は早期に抜き取り処分する。 （野菜・花きのウイルス病防除対策の項、防虫ネットによる防除の項参照）	・アザミウマ類により伝染する。 ・葉の萎縮やえそ斑点が生じ、株全体が萎縮する。

## 花き類・観葉植物－ストック－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。  
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名		
						苗立枯病	灰色かび病	菌核病
1	ホーマイ水和剤		普	1. チウラム 2. チオファネートメチル	M3、1	○	-	-
2	ポリベリン水和剤		普	1. イミノクタジン 2. ポリオキシソ	M7、19	-	○	○

## 花き類・観葉植物－ストック－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。  
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名				
						コナガ	ハイマダラノメイガ	アオムシ	アブラムシ類	アザミウマ類
1	アニキ乳剤		普	レピメクチン	6	○	-	-	-	-
2	アフーム乳剤	抑制	普	エマメクチン安息香酸塩	6	○	-	-	-	-
3	オルトラン水和剤		普	アセフェート	1B	○	○	-	-	-
4	オンコル粒剤5		普	ベンフラカルブ	1A	○	-	-	-	○
5	コテツフロアブル		劇	クロルフェナピル	13	○	-	○	-	-
6	トアロー水和剤CT		-	BT	11A	○	-	-	-	-
7	ノーモルト乳剤	抑制	普	テフルベンズロン	15	○	-	○	-	-
8	プリンスフロアブル		劇	フィプロニル	2B	○	-	-	-	-
9	マブリック水和剤20	抑制	劇	フルバリネート	3A	○	-	-	-	-
10	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	-	-	-	○	○



各論作成日:2022年11月1日 必ずラベルを確認してから農薬を使用してください。

7-(12) ストック（花き類、花き類・観葉植物に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
苗立枯病	<b>播種前</b> 1. 適用薬剤で種子消毒を行う。 2. 土壌消毒を行う。(土壌くん蒸剤の項参照) <b>生育期</b> 1. 発病初期に登録のある薬剤で処理を行う。 2. 枯死株は、早期に抜き取り処分する。	・病原菌は糸状菌（リゾクトニア菌）である。 ・高温多湿時に発生する。
菌核病	<b>生育期</b> 1. 発病株は、早期に抜き取り処分する。 2. ハウス内の換気をはかり、湿度を下げる。	・発病適温は15～20℃である。 ・多湿条件で発生しやすい。
灰色かび病	<b>生育期</b> 1. 発病株は、早期に抜き取り処分する。 2. ハウス内の換気をはかり、湿度を下げる。 3. 暖房機の送風運転や循環扇を利用し、ハウス内の空気を動かし結露の防止を図る。	・発病適温は20℃前後である。 ・多湿条件で発生しやすく、降雨が続く時期や冬季保温のためハウスを密閉する時期に発生が見られる。
モザイク病 (TuMV、CMV)	<b>生育期</b> 1. 発病株は、早期に抜き取り処分する。 2. 幼苗期は寒冷紗で被覆する。 3. アブラムシ類の防除を徹底する。 (野菜・花きのウイルス病防除対策の項参照)	・アブラムシ類により伝染する。 ・葉や花弁に淡黄色のモザイクやえそが認められ生育不良になる。
コナガ	(コナガの防除対策の項参照)	



## 7-(13) トルコギキョウ（花き類、花き類・観葉植物に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
株腐病 根腐病 立枯病	<b>植付前</b> 土壌消毒を行う。(土壌くん蒸剤、蒸気消毒の項参照) <b>生育期</b> 1. 発病初期に適用薬剤を散布する。 2. 枯死株は、早期に抜き取り処分する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>株腐病の病原菌は糸状菌(リゾクトニア菌)である。</li> <li>菌の生育適温は30℃前後である。</li> <li>根腐病の病原菌は糸状菌(ピシウム菌)である。発病適温は25~30℃である。</li> <li>立枯病の病原菌は糸状菌(フザリウム菌)である。</li> <li>菌の生育適温は27~28℃である。</li> </ul>
灰色かび病	<b>生育期</b> 1. 発病株は早期に抜き取り処分する。 2. 暖房機の送風運転や循環扇を利用し、ハウス内の空気を動かし結露の防止を図る。 3. 多湿時は暖房機を作動させて温度を確保し、強制的にハウス内の湿度を下げる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>発病適温は20℃前後である。</li> <li>多湿条件で発生しやすく、降雨が続く時期や冬期保温のためハウスを密閉する時期に発生が見られる。</li> </ul>
斑点病	<b>植付</b> 健全な苗を定植する。 <b>生育期</b> 1. 施設内の通風及び換気に努める。 2. 発病を認めた場合は、発病葉を取り除いたのち適用薬剤を散布する。 3. 罹病株の残さは、施設外に持ち出し適切に処分する。 4. 多発ほ場では、内張ビニールや支柱等に分生子が付着し、次作の感染源となる可能性があるため、ハウス内の消毒を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>病原菌は糸状菌(シュードサーコスポラ菌)である。</li> <li>発生初期は、葉の表に退緑斑を生じ、後に葉の表裏に黒~灰色のすす状病斑が形成される。</li> <li>病斑は下位葉を中心に発生した後、上位葉へと進展する。</li> <li>本病は特に春から秋の多湿条件下で多発し、育苗期にも発生する。</li> <li>病斑上に形成される分生子により感染が拡大する。</li> <li>現在確認されている宿主はトルコギキョウのみである。</li> </ul>
青かび根腐病	<b>植付前</b> 1. 土壌消毒を行う。 2. 完熟堆肥を施用する。 <b>生育期</b> 1. 発病株は早期に抜き取り処分する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>草丈が短く萎凋・枯死する。根の所々が褐変するが症状が進むと根全体が褐変・腐敗する。また、地際部に青かびを生じることもある。</li> </ul>
えそモザイク病(CMV) モザイク病(BBWV, BYMV)	<b>植付</b> 健全な苗を定植する。 <b>生育期</b> 1. 発病株は早期に抜き取り処分する。 2. アブラムシ類の防除を徹底する。 (野菜・花きのウイルス病防除対策の項参照)	<ul style="list-style-type: none"> <li>アブラムシ類により伝染する。</li> <li>CMVは新葉に軽いモザイクを生じ、頂葉のねじれが生じる。</li> <li>BBWVは葉柄基部にアザミ状の条斑を生じる。</li> <li>BYMVは葉にモザイクや退緑斑や輪紋やえそ斑点を生じる。また、複数のウイルスが混合感染する場合もある。</li> </ul>
黄化えそ病(TSWV) えそ斑紋病(INSV) えそ輪紋病(IYSV)	<b>植付</b> 1. 健全な苗を定植する。 2. 自家育苗の場合、育苗初期からアザミウマ類防除を徹底する。 <b>生育期</b> 1. 発病株は早期に抜き取り処分する。 2. アザミウマ類の防除を徹底する。 (野菜・花きのウイルス病防除対策の項参照)	<ul style="list-style-type: none"> <li>アザミウマ類により伝染する。</li> <li>TSWV、INSV、IYSVとも上位葉の黄化を伴ったえそ斑点を生じ、下葉にえそ斑紋や退緑輪紋症状を示す。症状が進むと株が枯死する場合もある。</li> </ul>

各論作成日:2022年11月1日 必ずラベルを確認してから農薬を使用してください。

病害虫名	防除方法	参考事項
葉巻病 (TYLCV)	<b>植付</b> 健全な苗を定植する。  <b>生育期</b> 1. 発病株は早期に抜き取り処分する。 2. タバココナジラミの防除を行う。 (野菜・花きのウイルス病対策の項参照) (コナジラミ類防除対策の項参照)	・タバココナジラミにより伝染する。 ・主にトマト、トルコギキョウに感染する。 ・節間の縮み及び株の萎縮、葉の小型化及び葉脈の隆起、葉表を内側にした巻きあがりなどを引き起こす。
アザミウマ類	(ミナミキイロアザミウマの防除対策の項、ミカンキイロアザミウマの防除対策の項参照)	

## 花き類・観葉植物－はぼたん－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。  
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病虫害雑草名					
						ア ブ ラ ム シ 類	ア オ ム シ	カ メ ム シ 類	ハ マ キ ム シ 類	ヨ ト ウ ム シ 類	コ ナ ガ
1	アディオソ乳剤	抑制	普	ペルメトリン	3A	○	○	○	○	○	-
2	カスケード乳剤	抑制	普	フルフェノクスロン	15	-	-	-	-	-	○
3	ノーモルト乳剤	抑制	普	テフルベンズロン	15	-	-	-	-	-	○

## 花き類・観葉植物－ばら－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。  
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名								
						うどんこ病	さび病	べと病	灰色かび病	炭疽病	黒星病	アブラムシ類	チュウレンジハバチ	ハダニ類
1	アンビルフロアブル		普	ヘキサコナゾール	3	○	-	-	-	-	-	-	-	-
2	インプレッションクリア		-	バチルス アミロリクエファシエンス	BM2	○	-	-	-	-	-	-	-	-
3	エムダイファー水和剤		普	マンネブ	M3	-	○	○	○	○	-	-	-	-
4	オーソサイド水和剤80		普	キャプタン	M4	-	-	-	-	-	○	-	-	-
5	サプロール乳剤		普	トリホリン	3	○	-	-	-	-	○	-	-	-
6	サルバトーレME		普	テトラコナゾール	3	○	-	-	-	-	○	-	-	-
7	サンヨール		普	DBEDC	M1	○	-	-	○	-	○	○	○	○
8	ジマンダイセン水和剤		普	マンゼブ	M3	-	○	○	○	○	○	-	-	-
9	ダコニール1000		普	TPN	M5	○	-	-	-	-	○	-	-	-
10	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	○	-	-	-	-	○	-	-	-
11	トリフミンジェット		劇	トリフルミゾール	3	○	-	-	-	-	-	-	-	-
12	トリフミン水和剤		普	トリフルミゾール	3	○	-	-	-	-	-	-	-	-
13	パレード20フロアブル		普	ピラジフルミド	7	○	-	-	-	-	○	-	-	-
14	パンチョ顆粒水和剤		普	シフルフェナミド	U6	○	-	-	-	-	-	-	-	-
15	フルピカフロアブル		普	メパニピリム	9	○	-	-	○	-	○	-	-	-
16	ベンレート水和剤		普	ベノミル	1	○	-	-	-	-	○	-	-	-
17	ポリオキシシンAL乳剤		普	ポリオキシシン	19	○	-	-	-	-	-	-	-	-
18	ポリベリン水和剤		普	1.イミノクタジン 2.ポリオキシシン	M7、19	○	-	-	○	-	-	-	-	-
19	マネージ乳剤		普	イミベンコナゾール	3	○	-	-	-	-	○	-	-	-
20	モレスタン水和剤		普	キノキサリン系	I:UN、 F:M10	○	-	-	-	-	-	-	-	-
21	ヨネポン		普	ノニルフェノールスルホン酸銅	M1	○	-	-	-	-	-	-	-	-
22	ラリー乳剤		普	マイクロブタニル	3	○	-	-	-	-	○	-	-	-

## 花き類・観葉植物－ばら－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。  
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名						
						アブラムシ類	イバラヒゲナガアブラムシ	ハダニ類	ミカンキイロアザミウマ	アザミウマ類	チュウレンジハバチ	コナジラミ類
1	アディオフロアブル	抑制	普	ペルメリン	3A	○	-	-	-	-	-	-
2	アドマイヤー1粒剤		普	イミダクロプリド	4A	○	○	-	-	-	-	-
3	ウララ50DF		普	フロニカミド	29	○	-	-	-	-	-	-
4	カスケード乳剤	抑制	普	フルフェノクスロン	15	-	-	○	○	-	-	-
5	コロマイト水和剤	抑制	普	ミルベメクチン	6	-	-	○	-	-	-	-
6	ジェイエース水溶剤		普	アセフェート	1B	○	-	-	-	○	-	-
7	スミチオン乳剤		普	MEP	1B	○	-	-	-	-	-	-
8	ダニカット乳剤20		普	アミトラズ	19	-	-	○	-	-	-	-
9	ダントツ水溶剤	抑制	普	クロチアニジン	4A	-	-	-	-	○	-	-
10	テルスターフロアブル	抑制	劇	ビフェントリン	3A	-	-	○	-	-	-	-
11	トクチオン乳剤		普	プロチオホス	1B	○	-	○	-	○	-	-
12	プリンスフロアブル		劇	フィプロニル	2B	-	-	-	○	-	○	-
13	ベストガード水溶剤		普	ニテンピラム	4A	○	-	-	○	-	-	○
14	モスピラン液剤	抑制	普	アセタミプリド	4A	○	-	-	-	-	-	-

## 花き類・観葉植物－ばら(施設栽培)－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。  
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						ハダニ類
1	ペンタック水和剤		普	ジエノクロル	2A	○

7-(15) ばら (花き類、花き類・観葉植物に登録のある農薬も使用可能)

病害虫名	防除方法	参考事項
枝枯病 腐らん病 すそ枯病	<b>生育期</b> 1. 発病茎は切除し処分する。 2. 病患部を切り取った刃物は火炎等で消毒する。	・腐らん病は露地栽培で発生が多い。
べと病	<b>生育期</b> 1. 日中は十分な換気を行い、暖房機の送風運転や循環扇を利用し、通風をよくする。 2. 冬期は暖房を行い湿度を下げる。	・空気伝染する。 ・発病適温は18℃前後である。 ・低温多湿条件で分生子が形成されるが、湿度85%以下では感染しない。
うどんこ病	<b>生育期</b> 1. ハウス内の換気をはかり湿度を下げる。 2. 秋～春期は暖房を行い湿度を下げる。	・空気伝染する。 ・発病適温は18～25℃である。 特に、夜間の高湿度(90～99%)と低温(15～16℃)、また昼間のやや高温(26～27℃)と低湿度(40～70%)で発生しやすい。 ・施設栽培では、夏季の高温期を除いて、秋から翌春まで発生が多い。
灰色かび病	<b>生育期</b> 1. 日中は十分な換気を行い、暖房機の送風運転や循環扇を利用し、ハウス内の空気を動かし結露の防止を図る。 2. 多湿時は暖房機を作動させて温度を確保し、強制的にハウス内の湿度を下げる。また除湿機などがある場合は湿度を見て稼働させる。	・空気伝染する。 ・発病適温は20℃前後である。 ・多湿条件で発生しやすく、降雨が続く時期や冬期保温のためハウスを密閉する時期に発生が見られる。
根頭がんしゅ病	<b>植え付け前</b> 1. 健全苗を使用する。 2. 土壌消毒を行う。(土壌くん蒸剤の項参照) <b>生育期</b> 1. 発病株は速やかに抜き取り処分する。	・病原菌は細菌である。 ・一般的には株元に異常な肥大が見られ、暗緑色や黒褐色のごつごつしたこぶになる。株の生育はしだいに衰えシュートの発生も少なくなる。
ペスタロチア病	<b>生育期</b> 1. 発病した茎葉は切除しハウス外へ持ち出す。 2. ハウス内の換気をはかり湿度を下げる。	・葉及び茎に発生する。特に茎では採花したあと(傷)から紫褐色～黒褐色に変色し枯死する。 ・発病適温30℃。 ・多湿時、病斑部にかん水や薬剤散布などの水滴がかかり、その飛沫で伝搬する。
根腐病	<b>植え付け前</b> 1. 健全苗を使用する。 2. 気温が上昇する直前の改植は避ける。 <b>生育期</b> 1. 発病株は速やかに抜き取り処分する。	・病原菌は糸状菌(ピシウム菌)である。 ・根を加害し、被害部は水浸状に褐変腐敗する。 ・発病は主に7～9月で、最低気温が20℃以上の時期に多い。発病適温は35℃付近である。 ・生育初期には株全体が生育不良になる。下葉は黄化・落葉し、晴天日には花蕾からしおれる。改植1年目に被害が発生しやすい。 ・夏期後半に感染した株は秋以降に症状が回復することがあり、低温期には被害はほとんど認められなくなるが、翌年の伝染源となるため注意する。



各論作成日:2022年11月1日 必ずラベルを確認してから農薬を使用してください。

病害虫名	防除方法	参考事項
疫病	<b>植え付け前</b> 1. 健全苗を使用する。 2. 苗は地面から隔離して管理する。 3. 発病後の改植時には、培地等の消毒を徹底する。  <b>生育期</b> 1. 発病株は速やかに抜き取り処分する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土壌伝染性病害であるが、苗からの持ちこみにも注意する。</li> <li>・ 感染株は地際から茎が黒変し、下葉から黄変・落葉の後、枯死する。</li> <li>・ 菌の発育適温が25～26℃であるため、初夏～秋の高温期は急速に感染が拡大する。</li> </ul>
ハダニ類	(ハダニ類防除薬剤の特性の項参照)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 早期発見に努める。</li> </ul>
ミカンキイロアザミウマ	(ミカンキイロアザミウマの防除対策の項参照)	
カイガラムシ類	<b>生育期</b> 幼虫ふ化期に薬剤を散布する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼虫ふ化期                イセリヤカイガラムシ：年2～3回発生、幼虫ふ化期 6月、8月、10月                チャノマルカイガラムシ：年1回発生、幼虫ふ化期 5月下旬～6月下旬</li> </ul>
オオタバコガ	(オオタバコガ防除対策の項参照)	

## 花き類・観葉植物－パンジー－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。  
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名				
						灰色かび病	根腐病	うどんこ病	ハダニ類	アブラムシ類
1	サンヨール		普	DBEDC	M1	○	-	○	○	○
2	ベンレート水和剤		普	ベノミル	1	-	○	-	-	-

## 花き類・観葉植物－ひまわり－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。  
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名					
						べと病	黒斑病	苗立枯病	灰色かび病	斑点病	空洞病
1	オーソサイド水和剤80		普	キャプタン	M4	○	○	○	-	-	-
2	ゲッター水和剤		普	1.ジエトフェンカルブ 2.チオファネートメチル	10、1	-	-	-	○	○	-
3	ドイツボルドーA		普	銅	M1	-	-	-	-	-	○

## 花き類・観葉植物－ひまわり－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。  
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						ガ	タバコ
1	オルトラン水和剤		普	アセフェート	1B	○	

## 花き類・観葉植物－ひまわり－その他

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。  
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名			
						カラス	ハト	ムクドリ	苗立枯病
1	キヒゲンR-2フロアブル		普	チウラム	M1	○	○	○	○

## 花き類・観葉植物－フリージア－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。  
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名
						球 根 腐 敗 病
1	ホーマイ水和剤		普	1.チウラム 2.チオファネートメチル	M3、1	○

## 7-(17) フリージア（花き類、花き類・観葉植物に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
首腐病	<b>植付前</b> 球根になるべく傷をつけないようにし、通風のよい比較的低温の所に貯蔵する。	<ul style="list-style-type: none"><li>・病原菌は細菌である。</li><li>・多湿条件で発生しやすい。</li></ul>
球根腐敗病	<b>植付前</b> 1. 球根になるべく傷をつけないようにし、通風のよい比較的低温の所に貯蔵する。 2. 適用薬剤で球根消毒を行う。 3. 連作を避ける。 4. 土壌消毒を行う。（土壌くん蒸剤の項参照） <b>生育期</b> 発病株は早期に抜き取り処分する。	<ul style="list-style-type: none"><li>・病原菌は糸状菌（フザリウム菌）である。</li></ul>

## 花き類・観葉植物－プリムラ－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。  
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名			
						うどんこ病	灰色かび病	アブラムシ類	ハダニ類
1	サンヨール		普	DBEDC	M1	○	○	○	○

## 花き類・観葉植物－ペチュニア－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。  
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名				
						うどんこ病	灰色かび病	アブラムシ類	ナメクジ類	ハダニ類
1	サンヨール		普	DBEDC	M1	○	○	○	○	○

## 花き類・観葉植物－ペチュニア－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。  
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						アブラムシ類
1	アドマイヤー1粒剤		普	イミダクロプリド	4A	○
2	モスピラン液剤	抑制	普	アセタミプリド	4A	○

## 花き類・観葉植物－ゆり－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。  
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名					
						葉枯病	灰色かび病	茎腐病	鱗茎さび症	茎腐症(リゾープス菌による)	球根腐敗病
1	ICボルドー66D		普	銅	M1	○	-	-	-	-	-
2	アフエットフロアブル		普	ペンチオピラド	7	○	○	-	-	-	-
3	エコショット		-	バチルスズブチリス	44	○	-	-	-	-	-
4	ダコニール1000		普	TPN	M5	○	-	-	-	-	-
5	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	○	-	○	-	-	-
6	フルピカフロアブル		普	メパニピリム	9	○	○	-	-	-	-
7	フロンサイド水和剤		普	フルアジナム	29	○	-	-	○	-	-
8	フロンサイド粉剤		普	フルアジナム	29	-	-	-	-	○	-
9	ホーマイ水和剤		普	1.チウラム 2.チオファネートメチル	M3、1	-	-	-	-	-	○
10	ポリオキシシAL水溶剤		普	ポリオキシシ	19	○	-	-	-	-	-

## 花き類・観葉植物－ゆり－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。  
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						アブラムシ類	ネダニ類
1	ウララ50DF		普	フロニカミド	29	○	-
2	グレーシア乳剤	抑制	普	フルキサメタミド	30	-	○

## 7-(19) ゆり (花き類、花き類・観葉植物に登録のある農薬も使用可能)

病虫害名	防除方法	参考事項
球根腐敗症	<b>植付前</b> 1. 球根になるべく傷をつけないようにし、通風のよい比較的低温の所に貯蔵する。 2. 適用薬剤で球根消毒を行う。 3. 連作を避ける。 <b>生育期</b> 発病株は早期に抜き取り処分する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適用病害名は球根腐敗病であるが、ユリでの球根腐敗病での病害名はない。ユリ球根腐敗病の適用薬剤はフザリウム菌、リゾクトニア菌（糸状菌）に効果のある薬剤。フザリウム菌の病害名は乾腐病。リゾクトニア菌の病害名は株腐病である。</li> </ul>
葉枯病	<b>生育期</b> 1. 密植を避け通風をよくする。 2. 発病株は早期に抜き取り処分する。 3. 降雨後の適用薬剤の散布を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病原菌は糸状菌（ボトリチス菌）である。</li> <li>・空中湿度が高く、発病適温 20℃前後時に発生しやすい。</li> <li>・雨除け栽培をすると発生が少ない。</li> </ul>
疫病	<b>植付前</b> 1. 土壌消毒を行う。（土壌くん蒸剤、蒸気消毒の項参照） 2. 排水不良地や降雨の多い年に発生しやすいことから、露地ほ場では排水対策を行う。 3. 連作を避ける。 <b>生育期</b> 1. 発病株は早期に抜き取り処分する。 2. 密植を避け通風をよくする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病原菌は糸状菌である。</li> <li>・根腐を引き起こす。茎葉では、地際部茎が水浸状に腐敗し黒化して倒伏する。</li> </ul>
ウイルス病 (CMV、ASGV、 LMV、LSV、 RTBV、TMV)	<b>植付</b> 健全な球根を定植する。 <b>生育期</b> 1. 発病株は早期に抜き取り処分する。 2. アブラムシ類の防除を徹底する。 (野菜・花きのウイルス病防除対策の項参照)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主にアブラムシ類、汁液により伝染する。</li> <li>・CMVは新葉に軽い退緑のモザイクを生じる。ASGVは生育不良になる。LSVはほとんど葉に病徴が現れない。他のウイルスと重複感染していることが多い。TMVは葉にモザイク症状を示すが生育の影響は少ない。</li> </ul>

## 花き類・観葉植物ーりんどうー殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。  
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名					
						葉枯病	花腐菌核病	褐斑病	黒斑病	灰色かび病	アブラムシ類
1	ズボルドー		普	銅	M1	○	-	-	-	-	-
2	アフエットフロアブル		普	ペンチオピラド	7	-	○	○	○	○	-
3	インダーフロアブル		普	フェンブコナゾール	3	○	○	-	-	-	-
4	オーソサイド水和剤80		普	キャプタン	M4	○	-	-	-	-	-
5	ストロビーフロアブル		普	クレソキシムメチル	11	-	-	○	○	-	-
6	ダコニール1000		普	TPN	M5	○	-	○	-	-	-
7	バレード20フロアブル		普	ピラジフルミド	7	-	○	-	○	-	-
8	ピリカット乳剤		普	ジフルメトリム	39	○	-	-	-	-	○
9	フルピカフロアブル		普	メパニピリム	9	-	-	○	○	○	-
10	ベフラン液剤25		劇	イミノクタジン	M7	○	○	-	○	-	-
11	ベンレート水和剤		普	ベノミル	1	-	○	-	-	-	-
12	ポリオキシシAL水溶剤		普	ポリオキシシ	19	○	-	-	-	-	-

## 花き類・観葉植物ーりんどうー殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。  
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名							
						アザミウマ類	アブラムシ類	オオタバコガ	ナミハダニ	ハダニ類	ハモグリバエ類	ヒラズハナアザミウマ	リンドウホソハマキ
1	アディオンフロアブル	抑制	普	ベルメリン	3A	-	-	-	-	-	-	○	○
2	カスケード乳剤	抑制	普	フルフェノクスロン	15	-	-	-	-	-	-	-	○
3	グレーシア乳剤	抑制	普	フルキサメタミド	30	○	-	-	-	○	-	-	○
4	スカウトフロアブル	抑制	劇	トラロメリン	3A	-	○	-	-	-	-	○	-
5	スターマイトフロアブル		普	シエノピラフェン	25A	-	-	-	-	○	-	-	-
6	スミチオン乳剤		普	MEP	1B	-	-	-	-	-	-	○	-
7	ダニゲッターフロアブル		普	スピロメシフェン	23	-	-	-	○	-	-	-	-
8	ディアナSC		普	スピネトラム	5	○	-	○	-	-	○	-	○
9	トレボン乳剤	抑制	普	エトフェンブロックス	3A	-	-	-	-	-	-	○	-
10	ノーモルト乳剤	抑制	普	テフルベンズロン	15	-	-	-	-	-	-	-	○
11	フェニックス顆粒水和剤	抑制	普	フルベンジアミド	28	-	-	○	-	-	-	-	○
12	マイトコーネフロアブル		普	ビフェナゼート	20D	-	-	-	-	○	-	-	-
13	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	○	○	-	-	-	-	-	○